

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	----------------------------------------------

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

千葉県習志野市

#### ○学校名

習志野市立向山小学校

#### ○学校のURL

<http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp/mukouyama/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】 1 学年 2 学級、 2 学年 2 学級、 3 学年 2 学級、 4 学年 2 学級、 5 学年 1 学級、 6 学年 2 学級、【特別支援学級】 0 学級、【合計】 11 学級

#### ○児童生徒数

【全児童数】 245 人（平成25年11月18日現在）  
（内訳：1年生47人、2年生43人、3年生41人、4年生45人、  
5年生31人、6年生38人）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校教育目標】

主体的に学ぶ力と豊かな心をもち、健康でたくましい児童の育成

##### 【人権教育に関する目標】

- ・人間の尊厳についての自覚とそれに基づく実践力を養う
- ・「差別を許さない」児童の育成
- ・偏見をもたず、公平にふるまい、差別をしない人間関係づくり

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

豊かな心を育てる教育の充実

- ・「道徳の時間」の充実を図る。
- ・体験活動や異年齢集団活動の一層の充実を図り、互いに認め合い、協力し合い、共によりよい生活を築こうとする態度を養う。

異年齢集団活動（なかよし活動）の充実

- ・「わくわく鹿野山」を目標の一つになかよし活動を実施し、異年齢集団活動の効果を高める。

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### 1 「道徳授業」を通して

本校では、「認め合おう、支え合おう、高め合おう、共に生きる力を育む道徳授業の創造」という研究主題のもと、道徳教育の研究に取り組んでいる。その中では、人権に関わる教材を取り上げることもある。



<実践例> 2年生の取り組み「あなたのきらきら見つけます」

《授業前》

「ぼくは自分が一番好き。」「自分のいいところは…。」「友達のいいところは…。」自分という存在について考え、家族や友達といった自分を取り巻く周囲との関係にも目を広げていく。生きることを喜び、命を大切にしようという心情を養う。

《授業後》

「私ってこんなにすごかったんだ。」「私がいないと友達が悲しむんだ。」「自分の気持ちが優しくなったよ。」  
自己有用感や肯定感が高まっている。

#### 2 異年齢集団活動（なかよし活動）を通して

- ・ 子供の居場所づくりを目的とし、

豊かな人間関係づくり

自己有用感

社会性の基礎

を培うものである。

- ・ 内容：全校児童を縦割りで24のグループに分ける。リーダーは6年生、サブリーダーが5年生となり、各グループ10人程度の編成となる。一人の教師が2～3グループを担当している。年度末に学級編成をし、6年生から順番にグループを割り振る。5年生4年生と学年が下がりながらグループをつくり、リーダー性を考慮したり、実際の兄弟を避けたり、昨年度のグループメンバーと同じにならないようにしたりと配慮する。4月に入り、新入生が入学してすぐに1年生もグループに振り分けられる。作られたなかよしグループの一覧は最初の保護者会で配布され、我が子が誰と一緒にいるのか保護者も確認することができる。

○なかよし行事

- ・ 1年生歓迎会 . . . . . 新入生へのおめでとうカード作成



新入生が初めてなかよしグループに参加する。前もって作っておいたカードをプレゼントし、一年間の活動が始まる。

- ・ なかよし遠足 . . . . . なかよしグループによる全校遠足



グループごとに目的地を目指す。コースは幾つかあり、リーダーがメンバーと相談をしてコースを決める。教師はグループにはつかず、要所要所のチェックポイントに立って安全確保に努める。途中どこに寄って遊ぶか、目的地で何をして遊ぶか、リーダーがみんなの意見を聞きながら決めていく。6年生が完全なリーダーとしてグループを引率する。初めてのリーダーとしてのプレッシャーは相当な様子。



後日、遠足を振り返り、「ありがとうカード」を作る。どの子も必ずメッ

セージがもらえるように「1年生は3年生と6年生にメッセージを渡す」といった最小限のルールを決めておく。メッセージを交換して、「ありがとうカード」の台紙に貼っていく。

「最後までがんばって歩けたね。」

「手をつないでくれてありがとう。」

「一緒に遊んでくれてありがとう。」

など、ほかの学年への手紙であり、リーダーにとっては苦勞が報われる瞬間でもある。

- ・なかよし運動会・・・・・・・・なかよし種目でチームワークを発揮！

プログラム名：なかよしリサイクル



基本的には赤白対抗の運動会だが、種目の中に一つ「なかよし種目」を設けている。ここでは赤白関係なく、グループ対抗による競技で優勝グループにはカップも渡される。グループごとに空き缶をバケツに投げ入れ、入った空き缶の数を競っている。

- ・なかよし集会・・・・・・・・各委員会の発表も一工夫



昼休みに行われるなかよし集会。この写真は飼育委員会の発表で、校内で飼育されている動物に関する〇×クイズが出題され、グループで相談しながら答えていく。飼育委員会に限らず、各委員会からの発表もなかよしグループで行われる。

・わくわく鹿野山・・・・なかよし活動最大の全校自然体験学習



習志野市では、どの小学校でも4年生以上が時期をずらしながら2泊3日の鹿野山自然体験学習を行っている。本校では、小規模校であることから全校児童が鹿野山自然体験学習に参加している。グループごとに活動コースを選び、遠足のときと同様にリーダーがメンバーと相談しながら決めていく。



平成23年度までは下学年は1泊、上学年は2泊の全校児童による宿泊で1年生の面倒はすべて6年生のリーダーがみていた。寝食を共にして交流を深めていた。平成24年度からは、全校児童数が収容人数をオーバーしてしまい、下学年は日帰りでの参加となったが、グループごとの山の中の活動は継続している。



・うきうき活動・・・下学年によるなかよし活動

日帰りとなった下学年児童は、翌日は校内での縦割り活動を行う。3年生がリーダーとなり、木や枝を使った物作りや遊びコーナー、迷路などで低学年児童を楽しませる。3年生は初めてリーダーとして活動するので不安がいっぱいなため、事前に、4年生に去年の様子をアドバイスしてもらったり、6年生にリーダーのコツや気をつけなければならないことを教えてもらったりして、準備を進める。



下学年のリーダーとしての充実感を感じることができた。



後日、全校で「ありがとうカード」を交換して活動を振り返る。

・6年生ありがとう集会・・・卒業生への「ありがとうカード」作成



1年間なかよしグループのリーダーとして活躍した6年生へのプレゼント。同じグループの下級生から心のこもったメッセージが届く。1年間のなかよしグループ活動が終わる。

### ○なかよしタイム

上記のなかよし行事の準備のための活動であり、話し合い等が終了すると、グループでの自由遊びとなる。複数回実施し、縦割り活動の交流が日常的なものとなっている。

### 3 交流活動を通して

校内の異年齢集団活動（なかよし活動）だけでなく、学校外とも積極的に交流を図っている。

#### ① 併設幼稚園との交流

同じ敷地内に併設されている幼稚園との交流。普段は扉を閉めているが、校舎内での行き来も可能。



4年生と幼稚園年少組との交流で、年間4～5回実施している。



5年生と幼稚園年長組との交流。遊びコーナーでお客さん役をしたり、給食を一緒にとったりしながら年間を通じて交流を深める。

「来年待ってるね。」という5年生が6年生に進級するとき、年長児は新生入生として入学してくる。新生入生は6年生と兄弟学年となり、入学した段階で交流の3年目となる。「小一プロブレム」の解消にも効果があるものと考えられる。



1年生には危険で難しいグルーガンを使った工作も、6年生が手伝っている。6年生もただやってあげるだけでなく、アドバイスをしながら進め、1年生にやらせるべきことはさせている。自分たちが入学したときに、どのようにしてもらっていたかを想起しながら交流している。

## ② 幼稚園・保育所との交流



習志野市では、各小学校を拠点に周辺の幼稚園と保育所の年長児と1年生が交流を深めている。普段はお世話をしてもらっている1年生も、リーダーとして活躍できる場となっている。

## ③ 地域の方との交流





地域の方を招き、昔遊びを教わったり（1年生）、歌を聴いてもらったり（6年生）している。お年寄りは、子供たちの歌をとても楽しみにしており、いつも笑顔で交流を深められている。

#### 4 「人権教室」を通して



1年生と4年生を対象にした実践である。人権意識を高め、自分以外の人をも思いやる心の大切さを考える。また、「いじめ0」への取り組みとしている。人権擁護委員の方たちに来ていただき、授業を行う。一人一人がもっている権利とは何か、周りの人を傷つける言葉や態度とは何か学ぶ。DVDを視聴してから小グループに分かれ、各人権擁護委員さんを中心にグループ討議をしていく。最後に全体討議をして思いやりの大切さや自他共にかげがえのない存在であることを学んでいく。

#### 5 「いのちの講座」を通して





4年生を対象にした実践である。助産師さんを招き、受精卵の大きさやお腹の中で成長する胎児の様子、そして母親の愛情について学ぶ。保護者の方にも参加を呼びかけている。実際にこの助産師さんにお世話になった方もいる。「毎日親子げんかばかりで憎たらしいけど、昔を思い出してかわいく見えた。」「生まれてくれてありがとうと言いたい。」という感想を頂いた。

#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

- ・ 道徳教育の研究では昨年度3か年計画のまとめとして公開研究会を開き、広く先生方から御意見を頂いた。葛藤する場面では、子供たちが本気で悩む姿をみることができた。その中で価値を見だし、生活に生かしていこうとする実践力も育っている。これまで集めた資料や本校なりの指導方法などについては、今後の教育に生かしていく。豊かな心を育むための手法の一つとして、また豊かな人間関係を築くための異年齢集団活動の更なる充実に努めていく。
- ・ 異年齢集団活動は本校の学校経営上重要な要素である。
  - 「小さな学校の大家族」
  - というのが本校のキャッチフレーズであるが、小規模校ゆえのきめ細やかな教育を進めることができる。
  - 「全児童が顔見知りでなかよし」
  - 「職員も他学年児童のことをよく知っており、指導に生かせる」
  - このことが、「不登校ゼロ」の基盤にもなっていると思われる。
- ・ 併設幼稚園児の場合、小学生と2年間の交流活動がもてることも入学後の学校生活に効果があると思われる。小学校を卒業するまでの8年間を豊かな人間関係づくりに費やせることで、下学年への思いやりあふれる態度が多く見られる。自分たちがしてもらったことを次に伝えようとする自然な流れができていく。
- ・ 「わくわく鹿野山」は、10年以上続いている行事である。全校での宿泊自然体験学習は、スタートしたときは高学年の負担が大きく、「何で1年生の面倒を見なければならないのか。」と言う6年生もいたという。実際、食事や入浴、布団の用意など、実の兄弟のように寝食を共にする。しかし、年を重ね面倒をみてもらった学年の子たちが進級することで、自分たちが下学年の面倒をみるのが当然のようになっていった。今後も伝統行事の一つとして、そして異年齢集団活動の中心的な行事として扱っていきたい。

## 5. 実践事例についての評価

○保護者や地域の方からの反応はとても好意的である。

＜保護者からの学校評価からの抜粋＞

- ・なかよしグループがあって、より身近に他学年の子と一緒に活動できるので、ずっと続けてほしいです。
- ・この8年間、「向山の子」という立場で、他校ではできない経験を山のようにさせていただきました。当初の先生はいらっしゃいませんが、子供がこれから生きていく上で、大きな後ろ盾になってくれるものと思います。

○「ありがとうカード」の蓄積が次の意欲につながっている。

- ・行事ごとに交換される「ありがとうカード」は、ファイルに入れて保管している。その蓄積が次への意欲につながり、なかよしグループの交流の深さや人間関係の豊かさにつながっている。
- ・「ありがとうカード」は、もらえるとうれしいものだが、次のような傾向が見られる。

友達からもらえるとうれしい。

他の学年からもらえるともっとうれしい。

他の学年の保護者からもらえるとうごくうれしい。

つまり、児童にとって遠い人ほど「ありがとうカード」をうれしく感じている。

「わくわく鹿野山」で、1年生の保護者がリーダーである6年生に感謝の手紙を書いたときは、6年生はたいそう喜んでいた。

- ・単なるメッセージにならないように、発達段階に応じて「ありがとうカード」に工夫を加えていることも効果的である。

## 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

### 習志野市立向山小学校

子供たちの居場所づくりや人間関係づくりを目指した異年齢集団活動に特色がある。

特に「わくわく鹿野山」と名づけられた体験活動は、低学年から高学年の子供たちが一つのグループとして、食事や入浴、布団の用意などの寝食を共にする場面でもあるだけに、その力が試され鍛えられる場面である。そのために教師たちは年度末より様々な視点や条件を加味しながら次年度に向けてのグループ編成し、子供たちは学校内において異年齢集団活動の経験を積み上げていく。10年以上続けられているこの活動は、6年生にとってはリーダー性を発揮し、自己有用感や肯定感を高めさせる場面であり、小さい学年にとっては社会性の基礎を養う場である。

人権が尊重される人間関係づくりを目指す縦割り活動が、表面的で形式的に流れてしまうこともあることから、活動場面とねらいが明確に位置付いた例として参考になる。